



教育目標：「豊かな心と創造力にあふれ、たくましく実践する生徒」

令和7年度 片貝中学校だより

第9号 (令和8年1月16日発行)

☎ 0258-84-2030

<https://www.city.ojiya.niigata.jp/katachu/>



新しい年を迎え



全校書き初め

新しい年がスタートしました。冬休み中は、家庭・地域の皆様の見守りや御指導のお陰で大きな事故などの報告もなく、生徒たちは元気に3学期を迎えることができました。始業式では、各学年・生徒会の代表の4名の生徒が新年のスタートにふさわしく堂々と新学期に臨む抱負を発表し、学校生活の一層の充実を目指そうとする全校生徒の気持ちを高めてくれました。

さて、今年は何年か、十干の組合せで「丙午」です。丙午の年は「情熱やエネルギーに満ちた、大きな変化と飛躍のチャンスがある年」と言われています。生徒たちが情熱的で強い意志をもち、新しいことやあきらめかけていたことに挑戦し、よい結果につながるような年にしてほしいと思っています。8日(木)の始業式では、生徒たちがそれぞれの目標を実現できることを願い「三日坊主」を取り上げ、その起源について次のような話をしました。

「三日坊主」は、「何かを始めてもすぐに飽きてしまったり、長続きしなかったりする人や状態」を皮肉を込めて表す時に使われます。しかし、「三日坊主」の起源を遡ると何かに取り組むときの大切な知恵が見えてきます。

「三日坊主」は元々は江戸時代の寺院の文化から生まれてきたと言われています。江戸時代の寺の修業は厳しく、入門した僧侶たちの半数近くが修行に耐えられず短期間で挫折して寺を離れたという資料も残っています。そのような背景から生まれてきたのが「三日坊主」です。しかし、「三日坊主」という言葉は途中で挫折した僧侶に対する単なる皮肉や批判でなく、継続することの困難さと重要性を教える言葉として伝わったとも言われています。つまり、「人間誰しも物事をやる続ける上での弱さがあることを理解しておく必要がある。そして、時に自分に合わないと思ったら潔く撤退する判断力も大切である」という教えが「三日坊主」には込められているそうです。また、「三日坊主を十回続ければ一か月続いたことになる」という人もいます。例えば目標を立て三日やって自分に合わないと思ったら、自分に合うようにその目標を少し変えたり、別の目標を立ててまた三日取り組んでみる。この繰り返し、多様な経験を積み、自分に合うものを見つける重要なプロセスになると考えることもできます。

「継続は力なり」という言葉があるように一つのこと执着し継続することで成果を生みます。しかし、継続することに疲れたなと思ったら時には「三日坊主」になることも必要です。大切なことは「初心忘るべからず」です。新年を迎えて皆さんが胸にした、今年一年こんな年にしたいという熱い思いや決意を忘れずに毎日を送ることで、「継続は力なり」または「三日坊主」いずれの気持ちで取り組んだことも皆さんの成長につながると思っています。よい1年にしていきましょう。

御家庭、地域の皆様からは、本年も引き続き片貝中学校の教育に御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。
(校長)

